

平岡いきものはっけん隊から
お届けする地域の自然情報誌

季刊 湘南自然誌

2018年 秋の記録号 通巻11号

Vol.11

Shonan Nature Magazine
2018 Autumn Report

みんながあつめた
秋の宝石たち

Contents

P 3 ~ 特集1「愛すべき湘南の鳥たち」
P 11 ~ はっけん隊 ACTION REPORT
P 1 ~ 平岡発 四季のたより P 15 ~ みんなでつくる生きもの図鑑

P 26 おえかきひろば
P 27 はっけん隊 NEWS など



〈特集〉

日本野鳥の会神奈川支部幹事
かねこ のりよし

金子典芳先生が紹介する

君も今日からバードウォッチャー!

愛すべき湘南の鳥たち





自然はみんなの

平岡 秋

2018年9月～11月 秋の「遊び」と「コラム」



秋の便りが続々と！

秋は彩（いろどり）が豊かになる季節です。青い実がなるクサギ、黄色のツルウメモドキ、水色や紫のノブドウ、朱色のヒヨドリジョウゴ、紺色のムクノキ、橙色のカラスウリなど、たくさんの果実が熟します。他にも、薄紫の花が咲くカントウヨメナや桃色のイヌタデなども楽しめますし、ケヤキやエノキなどの広葉樹の葉色が徐々に変化していく様子も観察できます。このように、秋は植物のさまざまな色の変化が楽しめる季節です。

しかし、これらは見ているだけでは物足りないでしょう。青い色素をたっぷり含んだクサギの実の色水遊びを盛り上げますし、アケビやムクノキの実の独特の味わいをもたせてくれます。他にも、種の形がおもしろいアオツヅラフジやカラスウリの実を割ってみたり、服に付く実たち（ヌスビトハギなど）の不思議を感じたり・・・等々。楽しいことを発見していくには、五感を駆使して色々なアイデアを働かせることが大切です。今月も、子どもたちの様々な感覚を刺激して発見を楽しむ活動を展開していきたいと思っています。

衝撃！カメムシっていい匂い！？

平岡の森には、子どもたちから「りんご」カメムシと呼ばれるカメムシが見られます。なぜ「りんご」と呼ばれるかというと、なんと！まさかの「青りんご」のような爽やかな匂いを出すからです。一般的には嫌われ者のカメムシですが、そんなイメージを覆すこのカメムシの正式な和名はキバラヘリカメムシです。

臭いと思って恐る恐る臭いを嗅ぐ子ども、そして予想に反することで生じるこのギャップが、子どもたちの驚きと、面白さを倍増させます。一見ならず、一嗅の価値ありですよ（笑）。

このことをじっくり考えてみると、「カメムシ」＝「臭い」は、いわば偏見であると思うのです。普通は、カメムシというだけで拒絶し、ましてや触って臭いをかぐことなんてしないでしょう。しかし、そのような偏見や先入観が、その本質を曇らせたり、眼を背けてしまうことになってしまうとも言えるのではないのでしょうか。相手を見た目で判断するのではなく、しっかりと良く知ろうとすること、理解しようという姿勢の大切さを教えてくれる気がします。ただの1匹のカメムシとの出会いが、子どもたちの心の豊かさ育む大切な教育の一場面になるのかもしれない、と思っています。



ワンダーランド！ のたより

アキアカネ
絵：富岡誠一

文：堀田 佳之介 絵：富岡 誠一

※ 本ページは「園だより」
2018年10・11・12月号に掲載
した文章を、改編して紹介
しています。



探してみよう！魅力あふれる宝物！

園庭では、赤褐色のケヤキの葉がひらひらと舞い落ちはじめ、ふわふわで真っ白な蠟をまとった雪虫（アブラムシの一種）も飛び交っています。朝晩の寒さも目立つようになり、徐々に冬の訪れを感じられるようになってきました。

先日、年長さんが、落ち葉を集めてスタンドグラスを作りました。小春の暖かい日差しに輝く落ち葉に「きれい～！」と歓声があがりました。職員室では、みんなが園内で拾ったドングリを集めて、いくつ取れるかな？ゲーム機を設置しています。1人1日1回チャレンジできるゲームです。毎日、たくさんのお友だちが来て、夢中になって楽しんでます。ヨウシュヤマゴボウの実の汁を爪に塗り、マニキュアのように指を飾って目を輝かせている女の子たちもいました。子どもたちが、木の実や落ち葉の新たな一面を発見して、その面白さに惹きこまれた結果であるといえるでしょう。

どんなものにも、さまざまな人を惹きつける固有の魅力があります。魅力を感じるということは、そのものに自分なりの価値が見出されるということです。そして、子どもたち個々の感性から生み出された多様な価値が、集団の仲間の中で共有されたり、刺激し合いながら、輝きを増していくものだと思うのです。

これからやってくる冬にはどんな発見が待っているかな？みんなもぜひ沢山の魅力あふれる宝物さがしをしてみてください。



日本野鳥の会神奈川支部幹事

かねこ のりよし

金子典芳先生が
紹介する

特集

君も今日から **愛**すべき
バードウォッチャー!
湘南の鳥たち

アオバト観察会で講師を
務める金子先生
(2017.9/3、大磯照ヶ崎)

はじめに ～湘南は野鳥の宝庫～

鳥類は世界で約1万種、日本には約630種いると言われていますが、神奈川県には470種(2013年神奈川県鳥類目録Ⅵより)もあります。そして、野鳥観察グループ“こまたん”の調査では、相模川を除く平塚・大磯周辺だけで254種が確認されています。

平塚市は、丹沢山地から緑地帯が接続する大磯丘陵があり、広大な平野部とそこを流れるいくつもの河川、さらに海にも面している非常に自然の多様な地域です。そのため、湘南地域に住む私たちは、実に様々な鳥に出逢う機会に恵まれています。

そんな環境を活かして、皆さんには是非鳥の世界を楽しんでもらいたいと思います。この特集ではその導きになるよう、身近な鳥類や鳥にまつわるお話をいくつか紹介します。(金子典芳)

〈金子典芳先生 Profile〉

1959年平塚市生まれ。子どもの頃から野山を駆け回っていたが、やがて車やバイクが趣味になり、一時期は自然から遠ざかる。20数年前に野鳥観察グループ『こまたん』に出逢い野鳥の世界へ。以来鳥類への興味は尽きず、彼らの気持ちを知らうと考え始めると眠れないほど。今は寸暇を惜しんで平塚市や大磯町を中心としたフィールドへ出掛けしている。また、「いつまでもこんな自然が身近にあったらいいな」と思う仲間を増やそうと、探鳥会や講演・研究発表活動も積極的に行っている。

“こまたん”としての著作に「アオバトのふしぎ」(HSK)、「緑色の鳩、アオバト」(かながわトラストみどり財団機関紙ミドリ)がある他、アオバト・タゲリ・コムクドリなどの論文(日本野鳥の会神奈川支部 BINOS)も多数ある。

日本野鳥の会神奈川支部幹事・ひらつか生物多様性推進協議会協議委員・野鳥観察グループ『こまたん』メンバー。

※ 本欄の写真で記名の無いものはすべて金子典芳先生撮影です。

なつどり ふゆどり りゅうちょう

夏鳥・冬鳥・留鳥って？

夏鳥は、夏に南から日本にやって来る鳥のこと。

冬鳥は、冬に北から日本にやって来る鳥のこと。

留鳥は、一年中日本にいる鳥のこと。

※ 一年中日本にいるが、湘南では冬に見られる鳥は「湘南では冬鳥」となります。

同じ場所にみんながいたらエサの奪い合いになってしまうので、そのまま居着く種、北や南へ移動する種、それぞれ分かれて棲み分けをしています。

憲法も国連もないのに見事に秩序を保っているのが生きものの世界です。



セキレイの仲間

水辺に多く、小さな昆虫などを食べます。早足で歩き、止まると腰と尾羽を上下に振るしぐさはセキレイの仲間たちに共通の特徴です。

ハクセキレイ 留鳥

白い顔に黒い線

水際だけでなく街中でもよく見られます。

セグロセキレイ 留鳥

ほっぺが黒い

ほぼ日本にしかない世界的には珍しい鳥(日本固有種)。

キセキレイ 留鳥

スマートな体型

お腹やお尻が黄色

主に河川の中流～上流域で見られます。

シラサギは平塚市の鳥！ サギの仲間

シラサギは、体が白い種類のサギ（ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギなど）の総称です。平塚市で見られるサギの仲間は、主に以下の6種類です。

ダイサギ 留鳥



チュウサギ 夏鳥



アオサギ 留鳥



アマサギ 夏鳥



コサギ 留鳥



ゴイサギ 留鳥



シラサギ

● シラサギは平塚市の鳥

白鷺塚というのが平塚共済病院の敷地内にあるのをご存知でしょうか？昔あのあたりにシラサギの大きな繁殖地・コロニーがありました。ところが1938年に大きな台風が来て、500羽以上のシラサギが落ちて死んでしまいました。その時に作られたお墓が元となって、1959年に追分商店街の働きかけで平塚共済病院の敷地内に現在の白鷺塚が建立されました。昔からシラサギ科19種のうち、平塚市ではなんと13種も見られます。平塚はサギの種類の豊富な土地なのです。近代日本を代表する詩人・北原白秋が平塚に来た際、シラサギがやたらと多いので、「白鷺の白鷺の飛べば夕日の高麗寺 月になるやら風じゃやら」という歌を詠んだくらいです。そんな縁のあるシラサギは、2002年に平塚市の鳥に制定されました。

また、日本で見られるサギ科19種のうち、平塚市ではなんと13種も見られます。平塚はサギの種類の豊富な土地なのです。近代日本を代表する詩人・北原白秋が平塚に来た際、シラサギがやたらと多いので、「白鷺の白鷺の飛べば夕日の高麗寺 月になるやら風じゃやら」という歌を詠んだくらいです。そんな縁のあるシラサギは、2002年に平塚市の鳥に制定されました。

見分けてみよう！

水辺の鳥

カモ科の鳥の多くはオスが派手でメスが地味。その美しさでメスのハートを射止めようという魂胆。結婚するとメスと同じように地味な色になります。
クイナ科のバン・オオバンは雌雄同体です。

カルガモ 留鳥



コガモ 冬鳥



バン 留鳥

撮影：佐藤道夫氏



マガモ 冬鳥



ヒドリガモ 冬鳥



オオバン 留鳥(湘南では冬鳥)



カワウ 留鳥



クイナ 留鳥(湘南では冬鳥)



カイツブリ 留鳥(湘南では冬鳥)



1種じゃなかった？！

黒いカラスの仲間 ※

湘南地域で見られる黒いカラスのほとんどが、ハシブトガラスとハシボソガラスの2種です。(ここでは取り上げませんが、もう1種くちばしの根元が白いミヤマガラスもごく少数見られます。)

ハシブトガラス 留鳥



元々森林性であるためか、ビルの多い都市にも多い。たまにハシボソの鳴き声のまねをする場合もあるので注意。

ハシボソガラス 留鳥



元々草原性であるためか、比較的开けたところに多い。たまにハシブトの鳴き声のまねをする場合もある。

鳥さんたちも会話をしている？ 鳴き声に注目してみよう！

バードウォッチングには、見るだけでなく「聴く」楽しみもあります。鳥の鳴き声には様々な種類と意味があり、聴き分けられるようになるとグッと鳥の気持ちに近付けます。ここでは鳥の鳴き声について簡単な解説をします。

● さえずり・地鳴き・鳴き声

鳥がピーチクパーチク綺麗な声で鳴くことを一般的には「さえずり」と言われますが、狭義にはスズメ目の鳥が繁殖期に求愛や縄張りを宣言するときの鳴き声のことを指します。繁殖期以外の時期に鳴く声は「地鳴き」と言います。地鳴きには、「ここにいるよ」などのちょっとしたコミュニケーションの意味合いがあります。スズメ目以外の鳥の声は「さえずり・地鳴き」とは言わず、「鳴き声」と表現します。

シジウカラ 留鳥



「ツツピー、ツツピー」とかわいらしく鳴きますが、その声は原始的な言語になっていると言われてます。例えば、ヘビが近付いてきているのか？、フクロウが近付いてきているのか？で鳴き方を変え、上下どちらに逃げるか仲間に伝えているそうです。



アオジ 留鳥（湘南では冬鳥）

これは春になって木の上の方に出てきて、「チョッピー チョロルイ チリリ」とさえずりをしているところです。冬は枯れ草などの奥で「チッ チッ」と地鳴きします。冬にその声が庭で聴こえたらアオジの可能性が高いでしょう。



アオバト 留鳥（湘南では夏鳥）

山に棲むのになぜか海にやって来る変わったハト。(Vol.3 の特集に詳しく載ってます。)'オーアオー、アオアオ'の声は、雨や曇りの時に聴かれることが多いこともあって、物悲しいイメージで語られることが多い鳴き声です。

● 聞きなし

日本人は昔から鳥の鳴き声が好きだったようで、鳥の声を人間の言葉に置き換える「聞きなし」という言葉遊びが生まれました。ここでは比較的身近な鳥で面白いものをいくつか紹介します。



ホシオ 留鳥

いっぴつれいじょう
「一筆啓上
つかまつり候」



メジロ 留鳥

ちょうべえちゅうべえちゅうべえちゅうべえ
「長兵衛忠兵衛
長忠兵衛」



コジュケイ 留鳥

「ちょっと来い、
ちょっと来い」



サンコウチョウ 夏鳥

月日星の3つ
の光⇒三光鳥
つきひほし
「月日星、ホイホイホイ」



ホトギス 夏鳥

とうきょうとつきよきよかきよく
「東京特許許可局」



キビタキ 夏鳥

「ポッキーポッキー、
グリコのポッキー」



オオヨシキリ 夏鳥

ぎょうぎょう ろうぎょう
「仰々しい、仰々しい」



エナガ 留鳥

「ジュエリー、
ジュエリー」



アカハラ 留鳥（湘南では冬鳥）

「カモン・カモン・
チュウー」



ヒガラ 留鳥（湘南では冬鳥）

「冷てえ冷てえ」

● ものまねをする鳥

ガビチョウ、カケス、ムクドリ、モズなどは、他の鳥のものまねをします。

なぜものまねをするかというと、メスにレパトリの多さを聴かせて能力の高さを伝えるためと言われています。



ガビチョウ 留鳥

中国などからの帰化鳥



カケス 留鳥（湘南では冬鳥）

撮影：濱伸二郎氏

鳥が眠っても 電線から落ちないわけ

電線などに留まっている鳥たちは、居眠りするだけでも落ちてしまいそうに思えます。なぜ落ちてしまわないのでしょうか？それは鳥の足にある秘密があるからなのです。



鳥の足は曲げると指をギュッと握りこんでしまう構造になっています。逆に足を伸ばすと指は開きます。腱がそう繋がっているのです、死んだ鳥の足を動かしてもそうなります。しゃがむと勝手に指が木の枝や電線を掴んでくれる構造になっているから、寝てても落ちないんですね。

ただし、アオバトなど一部の鳥には、足を延ばした時でも掴めるように別に筋肉がついています。

川にいるセミ？ カワセミ

川面に突き出た草や枝によく止まり、水中の小魚を見つけてダイビングします。「チー」と言う高く鋭い声で鳴き、川面を低く直線的に飛ぶ青い鳥がいたら、まずカワセミだと思ってよいでしょう。



撮影：佐藤道夫氏



● カワセミは翡翠？ 川蟬？

カワセミの雛が川辺の巣穴で「ジャリジャリジャリ」とセミのような鳴き方をするとところから、日本人は昔からこの鳥を「川蟬」と表現してきました。こんな美しい鳥なのに、見た目ではなく雛の鳴き声から名前を付けるというのは日本らしい渋い命名だと思います。

ちなみに、中国にもカワセミは分布し、中国人はこの鳥を「翡翠」という漢字で表現しました。「翡翠（ヒスイ）」という宝石がありますが、カワセミのように美しい色の宝石だから、「翡翠」という漢字が当てられました。

● 人間の配慮によって繋がれた命

カワセミにはヘビが登って来られないような土の壁に巣を作る習性があります。しかし、河川改修などでそのような土の壁が減っているためか、鈴川の玉川橋の架け替え工事のために掘られた5mくらいの穴に巣を作り始めてしまったことがあります。それを知った私は、すぐに県の土木課に連絡して、カワセミの巣立ちまで工事日程を調整できるか相談してみました。すると次の日、さっそく行政と現場がカワセミに配慮してくださり、その穴の周りは立ち入り禁止になっていました。それから毎日のように仲間と観察をしていたのですが、ある日台風による増水で巣穴が水没して雛は全滅していました。現場の杭に止まって、水没した穴をじーっと見て動かない親鳥。私たち一同、涙を流しながらその姿を見ていました。しかし、現場の作業員がポンプで穴から水を吸い出した後、また巣穴を掘り始めてくれたのです。最終的に7羽が巣立ったのを確認しました。

このように、生きものの生態に合わせて少し工期をずらすなど、人間側の配慮によって繋がれる命があるのです。



玉川橋の工事で掘られた穴



巣穴掘り最中



巣穴の断面

出入り口

雛の部屋

湘南にもいるよ！ キツツキの仲間

キツツキというとどこか山の深いところにしかいないと思いませんか？実は私たちの周りでもよく見られるキツツキの仲間がいます。



コゲラ 留鳥

ラガーシャツのような白黒模様

日本最小のキツツキです。



身近な所でも見つかるコゲラの巣穴
～茅ヶ崎里山公園で～

撮影：編集部



アオゲラ 留鳥

深山に行かなくても見られるキツツキ。日本固有種。

鳥は恐竜の生き残り！？

鳥類は、ジュラ紀（約1億9960万年前～約1億4550万年前）に恐竜から枝分かれして現れたものです。

バンビラプトルの生体復元模型



撮影協力：国立科学博物館

始祖鳥の全身復元骨格



鳥と恐竜は全く違う生きものだと思います。しかし、バンビラプトルやティラノサウルスの仲間のいくつかは、鳥のように羽毛をまとっていたという説があります。また、恐竜も鳥も後ろ足が腰から下向きに伸びており、骨格的にもよく似ています。実は、鳥類はジュラ紀に恐竜の一部から枝分かれして現れました。したがって、鳥も恐竜という大きなグループの一つと言えるのです。

小さな猛禽 モズ

スズメ目の鳥でありながら「小さな猛禽」と呼ばれることもある肉食性の鳥です。

モズ 留鳥

キーキー！
ジュンジュン



モズは物まね上手なことから漢字では「百舌」と書きます。
秋になると木のてっぺんやアンテナにとまって「キーキー・ジュンジュン」と鳴くのは、冬の間の食べ物確保するための縄張り宣言で、「モズの高鳴き」と呼びます。

ヒメマイマイ
カブリ幼虫



サワガニ

撮影：編集部

小鳥（カシラダカ）までもはやにえに 撮影：岸一弘氏



岸一弘, 2014. 湘南地域におけるはやにえの記録. 文化資料館調査研究報告, (23)

● モズのはやにえ

獲物を枝などに刺す習性があり、「モズのはやにえ」と呼ばれています。

かわいそうに見えるけど… ヒナを拾わないで！

しばらくヒナの様子を観察して、鳴いたり、動いたりして元気なようであれば、そのままにしておきましょう。



シジウカラ
巣立ちヒナ

撮影：新井奈江氏

地面で飛べずにいるヒナを見つけ「拾ってきたけどどうすればいいのでしょうか？」という質問が野鳥の会などに寄せられます。多くの場合は近くに親鳥がいて、保護するつもりが親鳥からヒナを奪ってきてしまったことになります。心配な場合はヒナを近くのしげみの中においてその場から離れてください。親鳥はヒナの声でちゃんと見つけ出します。
もしほとんど動けなかったり怪我をしている場合は、傷病鳥獣の保護受け入れをしてくれる施設に連絡してください。

〈県内の保護施設〉 神奈川県自然環境保全センター、横浜市立よこはま動物園ズーラシア、横浜市立野毛山動物園、横浜市立金沢動物園

※ 野鳥を許可なく飼うことは法律で禁じられています。

ツバメの仲間 アマツバメの仲間

ツバメとヒメアマツバメは、どちらも名前にツバメと付きますが、全く系統の違う別の種類の鳥です。同じ食べ物を食べるがゆえに結果として同じような形になっていく「収斂進化」の良い例といえます。



まさに燕尾服

ツバメ 夏鳥

カラスなどに襲われないよう、コンビニなど人が出入りする場所に巣を作ります。



尾羽は短い

ツバメの仲間

イワツバメ 夏鳥

ツバメよりは小ぶりで、尻尾が短く切れた感じ。大きな建物や橋の下などに集団で巣を作ります。



ヒメアマツバメ 留鳥

ブーメランのような形の羽

アマツバメの仲間

ツバメ以上に足が退化しており、子育てするときや寝る時以外ほぼ飛びっぱなしです。

まだまだたくさんいる！ その他の身近な小鳥たち

一般的には小さな鳥のことはみな「小鳥」と呼びますが、バードウォッチャー的には「小鳥」というとスズメ目の鳥のことを指します。

スズメ 留鳥



人がいない土地では見られないのに、意外と人見知りする（すぐ逃げちゃう）小鳥。

スズメの寿命は、飼育下では12年という例もありますが、自然界では大体1年未満。そのため、その辺のスズメのほとんどは若い個体だと思つてよいでしょう。たくさん死んでしまうのでたくさん産む鳥です。

ジョウビタキ 冬鳥



羽の白い紋から、九州の方では紋付鳥などと呼ばれたりします。

食べ物を確保するためオスメス別に縄張りを作ります。そのため、オスとメスがケンカすることは普通。車のミラーに映った自分の姿を敵とみなして攻撃したりする気の荒い鳥です。

信州あたりでは夏に北へ帰らず、留鳥化し始めています。

ルリビタキ 留鳥（湘南では冬鳥）



家の庭にはジョウビタキだけでなくルリビタキが来ることもあります。オスは青・白・黄の羽が美しく、メスは全体的に褐色で地味。オスが美しい姿に成鳥するのは4年もかかるそうです。

オスのさえずりは「ルリビタキだよ」と聞こえ、冬でもさえずります。（地鳴きは「ヒッ ヒッ」の間に時々「グググッ」）

ヒヨドリ 留鳥



冬は庭のツバキの花の蜜をなめによく来て、「ヒーッ」とか「ピーッ」と大きな声で鳴きます。

ヒヨドリバナやヨツバヒヨドリという草は、冬鳥であるヒヨドリが渡ってくる秋頃に花が咲くので、ヒヨドリの名が付されました。しかし今や一年中日本にいる留鳥です。

日本国内では季節によりある程度移動するものもいます（漂鳥）。

ムクドリ 留鳥



3241羽のムクドリ

ムクドリの囀（ねぐら）入り宮沢賢治が詩にしているくらい圧巻です。



囀（ねぐら）になる中洲が減り、市街地の樹木を囀にしてしまうため、鳴き声や糞により嫌われてしまう鳥ですが、害虫を食べてくれる益鳥でもあります。中洲や樹木が豊かな大きな公園があれば、人間との軋轢が緩和されます。

ウグイス 留鳥



「ホーホケキョ」と言えば知らない人はいないくらい有名なさえずりで、冬の地鳴きは「チャッチャッ」。笹藪など下草が茂った場所が好きです。全体的に地味な褐色で、「ウグイス餅」の緑色だと思ったら大間違い。

メジロ 留鳥



全体的に緑色で目の周りの白いリングが目印になり見分けは簡単。花の蜜を求めて市街地の公園や庭にも来ます。横枝に身を寄せ合うように並ぶ姿から「メジロ押し」の言葉が出来ました。

カワラヒワ 留鳥



スズメほどの大きさで緑や褐色の中に黄色がアクセント。電線や木のとっぺんで「キリキリ コロコロ チューン」とさえずる。太くて短いクチバシは草の実をついばむのに適しています。

千鳥足が愛らしい チドリの仲間

千鳥足という言葉は、ちょこちょこ歩き回るチドリの歩き方が由来になっています。河原に巣を作るため増水に弱く、河川改修による中洲の消滅、人間の侵入などもあり、数が減っているのが現状です。

コチドリ 夏鳥

ピューイ

イカルチドリよりは下流を好みます。「ピューイ」と言う鳴き声。カワセミに似た飛び方をします。水辺に棲む昆虫などが大好きです。

イカルチドリ 留鳥

● 偽傷行動

コチドリやイカルチドリは、巣に外敵が近付くと、親鳥が少し離れたところで怪我をしたふりをして敵の気を引き、巣から遠ざけていく「偽傷」という行動をとります。

イカルチドリの巣と卵

小石を集めた巣で子育て。小石に紛れる保護色をしています。平たいところに卵を産むので、転がっても戻ってくるようにイチゴのような円錐状の形をしています。

湘南で見られる 主な猛禽類

猛禽類は獲物を狙うため目が前を向いて付いています(写真→)。一方、狙われる側の小鳥たちは、広く見渡せるように目が横向きに付いています。



トビ

留鳥

ピー
ヒョロロ

白っぽい斑

三味線のバチのような尾羽

全体的に暗褐色

ハヤブサ

留鳥

先が尖って見える

もみあげのような模様

オオタカ

留鳥

幅広い翼

白い眉斑

太めに見える胴体

ノスリ

留鳥

淡い褐色

黒い斑

短くて丸い尾

チョウゲンボウ

留鳥

先が尖って見える

閉じた尾は細長い

ミサゴ

留鳥

細長い

下面是全体的に白っぽい

おわりに～フィールドへ出るきっかけに

僕らが住んでいる土地には、多くの鳥さんたちが住んでいます。鳥たちには鳥たちの暮らしがあって、彼らも一生懸命生きています。鳥も知性を持っていて、僕らとは違う次元で賢い生きものです。人類は誕生してから数百万年しかたっていないけれど、鳥類は数千万年の歴史を生き抜き、僕らが持っていない能力をたくさん持っています。たとえば空を飛ぶこと。人間は背伸びしたって飛ぶことはできません。鳥の方こそ人間のことを飛べない動物だと笑っているかもしれません。

しかし、鳥はどこへでも飛べますが、どこでも暮らせる訳ではありません。それぞれの鳥にあった多様な環境が必要です。この特集を機に、ちょっと足を止めて身近な小さな自然にも目を向けてみませんか？その中に実に様々な鳥が暮らしていることに気付いて、『なんかいいなー!!』と感ずることが出来たら、その時あなたはもう立派なバードウォッチャーです。素晴らしいと感じることが自然を守る原動力になるのです。

いろいろ話してきましたが、難しいことは忘れて構いません。まずは身近な鳥に目を向けてみましょう。思わぬ感動が待っていますよ！
(金子典芳)



鳥はどこへでも飛べるが
どこでも暮らせる訳ではない

上空にはミサゴなどの猛禽やツバメがいます。人間には要らないように見える枯れ草は、ホオジロの大切な食事場です。一方草木のない水際ではコチドリが巣を作ります。土手に生えた樹木はムクドリの時になり、中洲はサギの仲間が時になっています。水辺にはカモやバンなど水鳥がいて、深いところ、浅いところ、澁んだところ、それぞれ必要としています。

たった一枚の写真の中にも、これだけ多くの鳥たちの住処があるのです。

地域の自然を知ろう!守ろう!伝えよう!

はっけん隊 アクションレポート Action Report 2018.9月～11月

何かいるかな?
みんなで草むらを探検だ!

平岡幼稚園では「自然の中であそび、自然から学ぶ」をテーマに、園内外のさまざまな自然とふれあいを深めていく活動を行っております。多種多様な恵みをもたらしてくれる自然を、私たち1人ひとりが大切にしたい!と思うことが、地域の自然環境を守っていく第一歩となるはずです。

本コーナーは、我が園秋季のアクションと地域の自然観察スポットの情報等を盛り込みました。皆様の自然体験の充実のお役に立てれば幸いです。

アユのつかみ取り体験

平成30年9月1日(土)に、金目川水系流域ネットワークの皆さんと一緒に、金目川でさまざまな水辺の生きものとふれあう体験教室を開催しました。

当初は、川の水を利用した大きなプールを作ってアユのつかみ取りをする予定だったのですが、子どもたちが入ると水が濁ってアユが見えなくなってしまう可能性があるため、大きな容器に入れてつかみ取りを楽しみました。

その後、実際に金目川に入って生きものを探してみました。アユの他にも、ヌマチチブやヨシノボリの一種、エビ類のほか、トンボの幼虫も6種類(オニヤンマ・コオニヤンマ・コシボソヤンマ・ミヤマカワトンボ・ダビドサナエ属の一種・コヤマトンボ)が見つかりました。



アメンボとかお魚とか捕まえて良かった (図児)



いっぱい魚がつかめて楽しかった (図児)

金目川には初めて入ったのであけど、水が意外ときれいなのと、アコとかたくさんいることに驚きました。(図児父)



わたしたちが遊んだ
金目川はこんなところ!

金目川の水質は、近年大幅に改善され、多くの生きものが戻りつつあります。丹沢から流れる清流、金目川をこれからも大切にしていきたいと思います。

【注意】川で遊ぶのはとても楽しいですが、危険もたくさんあります。必ず大人と一緒に行きましょう。



柳谷観察会（県立茅ヶ崎里山公園）

平成 30 年 11 月 24 日（土）9：30～12：30、茅ヶ崎野外自然史博物館主催の柳谷観察会「秋色に染まる動植物」が、県立茅ヶ崎里山公園で開催されました。我が隊からの参加者は、公園内で見つかる“5種のドングリ探し”と“秋の生きもの探し”の二つのテーマを決めて散策しました。

5種のドングリは公園内の各所で全部見つけることができ、種類によって違う色や形、模様を学べました。生きもの探しは、見られる生きものも徐々に少なくなる時期ですが、たくさんの生きものに会えました。初めてプラスチック製シャーレを使用したのですが、透明度が高く、中に入れた生きものの細部まで観察できるので、みなさんから好評でした。

秋晴れの爽やかな空気を感じながら、楽しいひと時となりました。



アオバト観察会

野鳥観察グループ「こまたん」の皆さんのご協力のもと、平成 30 年 9 月 2 日（日）に、大磯町の照ヶ崎海岸にてアオバト観察会を実施しました。今年のアオバト観察会は天気恵まれず、家を出る前にポツポツと降り始めた雨は、現地に着くころには土砂降りに。しかし急遽、雨を凌げる西湘バイパスの下で金子典芳先生と斎藤常實先生がアオバト講義を開いてくださり、皆で楽しく聴いて帰りました。

2 日はアオバトが見られなかったため、翌々週の 9 月 16 日（日）に有志を募ってもう一度照ヶ崎に行きました。天気が微妙だったものの、最大 150 羽のアオバトが岩場に舞い降り、荒波に負けず海水を飲む様子が観察できました。

撮影：金子典芳氏

海水を飲むために岩場に降り立つアオバト



150 羽の群れがあどかった！（図見）

アオバト 撮影：金子典芳氏



撮影：金子典芳氏

アオバトを
狙うハヤブサ



アオバトがたくさん見れて楽しかった！（図見）



少しだけどめ鳥も見れてよかった（図見）



メスが多くてオスは少ないね〜！



バイパス下でアオバト講義

金子典芳先生

斎藤常實先生

アオバトの目は
青くてきれい！

羽が青っぽいのが
オスだよ



アオバトの羽は、光が当たると発色します（構造色）



雨が降ってきてしまっで残念でしたが、アオバトの話がたくさん聞けて楽しかったです。（図見）

撮影：金子典芳氏

9/2（日）の参加者



波が高かったのに、海の水も飲むのに一生懸命なことに驚きました。命がけなんだと感じました。（図見）

撮影：金子典芳氏

9/16（日）の参加者

アオバトも初めて見たから楽しかった（図見）



わたしたちが遊んだ
大磯・照ヶ崎海岸はココ！

アオバトの集団飛来地として県の天然記念物に指定されている照ヶ崎海岸。アオバトを見るなら 5 月～9 月の早朝がおすすです。その時期は「こまたん」の皆さんが毎日のように観察されているので、いろいろ教えてもらえますよ！

大磯港駐車場
1 時間 310 円（1 日上限 1020 円）

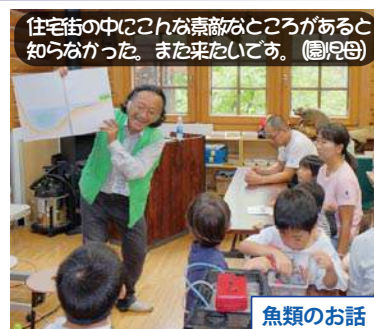


くずはの家であそぼう！

平成30年9月15日（土）に、秦野市の自然観察施設「くずはの家」で、金目川水系流域ネットワークさんと共に本イベントを開催しました。今年も雨で（3年連続の雨です…）、葛葉川での生きもの探しはできませんでしたが、「金目川の鳥類・魚類のお話」や、「からくりあそび」、「つかめる水！？を作ろう！」など盛り沢山で、充実した1日になりました。



マジックみたいなやつが楽しかった（図児）



住宅街の中にこんな素敵なところがあると知らなかった。また来たいです。（図児母）

魚類のお話



オイカワ捕まえた！

眺めてきれい〜♪



水がつかめるのが不思議で面白かった！（図児）

つかめる！？水作り



鳥類のお話

1円玉2枚くらいの重さしかない鳥がいるここに驚きました。（図児母）

わたしたちが遊んだ
「くずはの家」はココ！

かながわナショナルトラスト緑地第1号（葛葉緑地）



秦野市曾屋 1137 Tel: 0463-84-7874

天気が良ければ川遊びもできて、一日
楽しめる秦野市立の自然観察施設です。



葛葉峡谷



みどりのカーテンコンテスト

平岡幼稚園の園舎西側には、2015年4月に設置したグリーンカーテンがあります。このグリーンカーテンは元々その場に生えていたヤブガラシやヒルガオなどを利用して、花の蜜を求めて様々な昆虫が集まったり、幼虫の食草にもなるなど、地域の生きものを育む場となっています。これらの植物は根絶が難しく厄介者とされていますが、逆にその旺盛な生長力を利用すれば、毎年手を入れなくても立派なグリーンカーテンができてしまうのです。

我が園では除草を目指すのではなく、身近な生きものとの共存・利用を選択し、地域の生きものの保全活動とエコ活動、教育活動に活用しております。これらの取り組みが評価され、平塚市環境政策課主催「平成30年度 みどりのカーテンコンテスト」で優秀賞をいただきました。



爽やかな緑が部屋を涼しくしてくれま〜す



アゲハ類もよく集まる

蜜たっぷり ヤブガラシの花

ヤブガラシが食草
フドウスズメの幼虫
甘い蜜に誘われて
アリの類も来ます

可憐な
へちまカズラの花
ヒルガオの花



園舎西側のグリーンカーテン



表彰式：11月12日体育室にて

みんなも応募できる
みどりのカーテンコンテスト

本コンテストは毎年開催されており、個人でも応募できます。

市内でグリーンカーテンを設置している方は、ぜひ応募してみたいかがでしょうか？

問い合わせ先：平塚市環境政策課

Tel / 0463-23-1111 (代表)